



ICT 活用推進モデル校としての取り組み



目的

伊勢崎市教育委員会からのICT活用推進モデル校の指定を受け、教科指導における活用の仕方、特別支援教育等への活用の仕方等を日常の実践を通して模索し、生徒が「わかる喜び」「できる楽しさ」を味わいながら学力向上を図れようとするとともに、本校教職員のICT活用指導力の向上を図る。

取組内容

- (1) 情報化推進リーダーを位置付けICT活用推進チームを組織する。
- (2) ICT活用推進チームを中心に活用モデルの作成及び活用例の洗い出し。
- (3) 教職員に向けた基本的研修を実施する。
- (4) 活用モデルと参考に各教科で実践する。(本年度は実施可能な所から実践)
- (5) 県教育委員会義務教育課ICT活用促進プロジェクト実践推進校として活用モデルの情報提供をする。

活用の様子 ①



〈資料の提示〉

・あらかじめデータを保存しておいた教師用タブレットPCを大型電子黒板に接続し、資料を提示した。

必要に応じて、ポイントとなる部分を丸で囲んだり、タッチペンで画面に解説を書き込んだりして、考えや理解を深めさせた。

〈意見交流〉

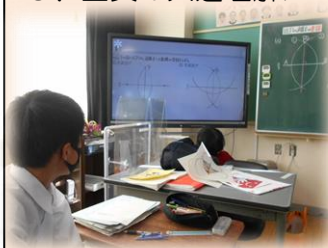
・体育の集団演技の構成を考える場面で、生徒が大型電子黒板に書き込みながら意見を交流させた。

自由に書いたり消したりできるので、ホワイトボードや学習カードを使うよりも簡単で、活発な意見交流につながった。



〈実物投影による考えの共有〉

・よい考えや、解答の仕方を生徒のノートやプリントから見つけ、大型電子黒板に映し出し、全員の共通理解につなげた。



また、教科書やプリントを投影し、タッチペンで書き込みながら、考え方のヒントやポイントを説明した。

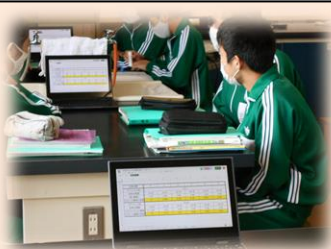
〈図と式から考えを比較〉

・大型電子黒板に生徒の考え方を書き込ませ、黒板に本時のめあてやまとめ等を書くなどの使い分けを行った。

タッチペンの色や背面の色などを変えることで、よりわかりやすく考えを提示することができた。



活 用 の 様 子 ②



〈実験結果を表やグラフにまとめ、考察する〉

- ・理科の授業で教師用タブレットPCから、用意していた実験データを生徒用タブレットPCに送り、そのデータを基に規則性を見いださせるための意見交流を行った。

〈オクリンクを使っての意見交流〉

- ・数学の課題を解決する場面で生徒が一人1台ずつタブレットPCを使い、ミライシードのオクリンクを使って、自分の考えを先生やクラス全員又は同じ班の仲間に送付し、意見交流を行った。また、使ったカードを並べ替え、学習したことを整理した。



〈動画を撮影し、構成やできばえをチェックする〉

- ・体育の授業で、生徒用タブレットPCで動画を撮影し、技のできばえをチェックしたり、表現の構成を見直したりした。

互いに見合ってアドバイスし合う交流よりも映像を見ることで、言葉で伝えられていた課題が視覚的に捉えられるようになった。また、課題が明確になりより具体的なアドバイスや意見が交わされるようになった。

〈プレゼンソフトを提示しての発表〉

- ・学校保健委員会では、「三中GENKIで感染症予防！みんなで守って、みんなを守ろう！」

三中の新しい生活様式」をテーマに、各クラスの保健委員がプレゼンソフトを活用して、今までの学校生活で、よくできていた点や課題点を三中GENKIチェックシートやアンケートを元に発表し、生徒一人一人が意識を高め、感染症予防に取り組んでいけるよう呼びかけた。



〈オンラインによる集会等〉

- ・新型コロナウイルス感染症予防対策により、全校生徒が一堂に集まることができないため、オンラインによる生徒総会、人権集会を計画し実施した。

生徒総会では、物理室をスタジオとして各教室とネットで結び、Google meetによるオンラインで総会を開きました。生徒会本部役員が司会や議題提案などの分担を決め、初めての試みに少々緊張した面持ちで会を進めました。審議については紙面による形式をとりましたが、今後は双方向でのやり取りなど、より有効に機能する方法を考えていきたいと思います。

人権集会では、職員室をスタジオとして各教室とネットで結び、Google meetによるオンラインで校長講話を行いました。プレゼンソフトを基に、講話を進めたり、動画を視聴した後に生徒同士で話し合う時間を設定したりしました。職員室のディスプレイには、各クラスで真剣に画面を見つめる生徒の姿や話し合う様子を見ることができました。今後は生徒用タブレットPCを活用し、生徒一人一人とつながるなど、集会だけでなく学習にも取り入れることを考えていきたいと思っています。

